



財団法人ロータリー米山記念奨学会

東京都港区芝公園2丁目6-3 abc会館8階 (〒105)

電話 (03) 434-8681

昭和58年8月12日

国際ロータリー第259地区

直前ガバナー 加藤 宗兵衛 殿

財団法人ロータリー米山記念奨学会

常務理事 増田 房二

昭和58年10月31日

関係各位

財団法人ロータリー米山記念奨学会

常務理事 増田 房二

拝啓 錦秋の候益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

早速ながら、国際ロータリー第259地区直前ガバナー

加藤宗兵衛氏が、ガバナーご在任中に、昭和58年6月30

日付を以て発行されましたガバナー月信号外「座談会 米山

奨学会に望む」は貴台にも配布されましたので、既にご高覧

のことと存じます。

この座談会で述べられております色々な批判や要望の中には、

米山奨学会の今後の運営に心すべき点がございませ反面、当

会の考え方とはかなり相違する部分も見受けられましたので、

去る8月12日付弊信を以て私の見解を加藤直前ガバナーに

披瀝致しました。

然しながら、当該月信号外をお読みにになりました各位に、奨

学会運営の方針や実態をより正しくご理解頂く為には、弊信

見解も合せてご一読願う必要があると考えましたので、去る

10月21日常務理事会のご承認を得て、加藤直前ガバナー

宛弊信写を茲許同封ご高覧に供します。

このような議論の交換されますこと自体が、米山奨学事業の

認識を深め、その推進に役立つものと存じますので、弊意お

汲み取り下さいまして、今後一層のご指導ご支援をお願い申

し上げる次第でございます。

敬具

拝啓 時下盛夏の候益々ご健勝にて大慶に存じますとともに、ロータリーに
対する日頃のご尽瘁に深く敬意を表します。

さて、先般はガバナー月信号外「座談会 米山奨学会に望む」をご恵送下さい
まして誠にありがとうございました。

貴地区が、予てより米山奨学事業に格別の熱意を示され、多大のご協力を頂い
ておりますことはよく承知しておりますが、今回の月信号外により、貴台のご
指導とご関心の程を拝察して、強く胸を打たれこの事業の運営にたずさわるも
のの一人として、深甚なる感謝の意を表する次第でございます。

極めて貴重な示唆に富むご提言を賜りましたので、心して受けとめ、この事
業の一層の発展に活かして、ご期待に応えて参りたいと覚悟を新たにしてお
ります。しかしながら、数々のご指摘、ご批判の中には、私の考え方と異なる部分
もあり、現在の米山奨学会の方針を正しく理解して頂く必要も感じますので、
誠に僭越且つ失礼とは存じますが、それらの点について、下記の通り忌憚なく
見解を申し述べることをお許し頂きたいと思ひます。尚、米山奨学会に対する
今回のご要望は、月信号外という形式により、奨学会当事者以外の先にも半ば
公開的に配布されておりますように推察しますので、私のこの見解も、同様の
範囲に配布するフェアなご措置をとつて頂ければ幸甚でございます。

1. クラブ推薦の応募者が不合格となつたことに対する不満について

① せつかくクラブから推薦した応募者が不合格となつたことに対する失望
と不満のお気持はお察しますが、われわれはむしろ、特別のコネがもの
をいうと、留学生に思わせることの弊害を憂慮し、選考はすべての応募者
にあくまで公平でありたいと考えております。

従つて、現行制度では、特定のロータリアンやロータリークラブの推薦
は、選考に影響を与えない建て前にしており、試験はなるべく専門的な内
容で行つてその結果について、受験生にあれこれ疑念をいだかせず、さわ
やかに納得させることを期待しております。

② 多額の寄付をしたクラブが推薦した応募者は、成績が悪くても採用せね
ばならぬとしたら、それよりも寄付の少ないクラブから推薦された応募者
を、たとえ成績がよくても不合格とする試験官の良心は、どのように感ず
るでしょうか。この場合、毎年全員を合格させよというような無茶な議論
は問題外として、米山奨学生の顔を見る機会もない沢山のクラブが、黙々
として寄付を続けておられることも、あらためて考えて頂く必要があると
思ひます。

③ 去る4月13日の理事懇談会において、或理事から「米山奨学会に対する寄付は、自分の地区や自分のクラブのために使用されることを期待して行うものではなく、日本のどこかで、留学生に役立つおればそれでよいとすべきである。寄付と奨学生の割当を紐付きのように考えるのは、ロータリー-的でなく、米山奨学事業の本質を理解しないものである」とのご発言があり、当日ご出席の理事何れもこのご意見に異論はありませんでした。

2. 奨学生の地区別割当について

① 60名の申請で40名落選では気の毒だから、もつと増員できないか、当地区の寄付額は本年は6千万円位になると思うので、一人一年100万として、60名に支給できる金額を送金している。せめて50名に支給すれば「横浜鶴見北R.O.」のような問題も解消する・・・とのご発言に関連して地区別割当について申し上げます。

② 如何なる基準によつて、奨学生の地区別割当枠を設定するかは頭の痛い問題であります。貴地区は金だけを基準にお考えになつておりますので、仮に寄付額で割当を行うとすれば、昭和56～57年度の貴地区寄付額45,291千円は全国寄付額597,490千円の7.6%でありますから、昭和58学年度選考対象者411名を全員合格させると仮定しても、貴地区の割当は31名で50名には達しません。50名の割当を受けるためには、この年度の貴地区の寄付額は72,687千円必要であります。又、昭和57～58年度貴地区寄付額60,296千円でも、全国寄付額691,442千円の8.7%でありますから貴地区の割当が50名になるためには、有資格応募者が575名なければなりません。極端な議論として、575名の申込みがあつて、それを全部採用すると仮定すれば、継続支給者を加えて総数は700名を超え、これに要する奨学資金は一人年間約120万円として総額8億円でも足りません。このように考えますと、せめて50名に支給して問題を解消したいという貴地区のご希望が如何に現実放れしたものであろうかお解り頂けるでしょう。

③ 現在の割当方法は、寄付額による百分比と、応募者数による百分比を併用しておりますので、貴地区のように寄付額よりも応募者数の比率の方が高い地区では、それだけ有利になつていられることもご認識頂かねばなりません。但し、地区全体の寄付額の比率では、「小数の会員からなる地区を永久に不利な立場に追い込み、いつも大地区に奨学金を授与する結果になつてしまうと、小地区が主張することになるのではないか」というジェームス・E・アイデロツトR財団副事務長兼マネージャーの貴台宛1983年4月5日付書翰に述べられている懸念と同様の配慮をしまして、各地区の一人当たり平均寄付額による比率も加味するのがよいと考えております。

④ 地区間に競争率の大きな格差があることは、ご指摘の通りであります。大学との関連で、留学生の過密地区と過疎地区の存在が避けられない以上己むを得ない現象といわざるを得ません。又、有名校の多い地区のクラブは、米山奨学生のほかにもロータリー-財団奨学生や交換学生もかかえておりますので、世話をする学生の大幅な増加には限界があります。競争率緩和の問題は、専門の立場の方々に、公正且つ合理的な割当方法を考えて頂きたいと思ひます。

3. 中華人民共和国からの留学生にも、米山奨学金を支給すべしとの意見について

① 米山奨学生が台湾に片寄り過ぎているとの批判があることは事実ですが、在日留学生の中で、台湾留学生が圧倒的に多いという客観的条件から己むを得ないものがあり、又、日台間に正規の国交がないために、日本政府の奨学金の対象となり得ない台湾留学生が、米山奨学金によつて実質的に救済されておること、日本政府の肩代りの役割を高く評価されているのも事実であります。

② 共産国である中華人民共和国の留学生に米山奨学金を支給することについては、台湾・韓国・ロータリアンの国民感情を慎重に配慮する必要があり、反共の問題等微妙な外交事情がからむ現段階では、対象をロータリー-所在国に限定している寄付行為を改訂して公然と米山奨学金を支給することは、問題を起す恐れがあり、好ましくありません。

中華人民共和国内に、何らかの形でロータリー-が生れることは望ましいのですが、共産国は、本質的にロータリー-を受け入れない体制にあり、われわれの期待にもかかわらず、残念ながら早急には可能性がありません。

このことは、1981～82年度マキャフリー-R.I.会長のアプローチが結局進展しなかつたことから推察され、今の段階では、川崎R.O.の中国留学生援助や、奏野R.O.波多野氏がロータリー-の友4月号で述べておられるような「ロータリー-クラブが米山奨学会にならば、個別に接触して中国の留学生を援助する」のがよいでしょう。

4. 積立金留保が多過ぎるとの非難について

① ロータリー-財団が、かつて資金不足を来した苦い経験から、今では3年前の寄付金収入を基準にして、奨学金の枠を定めていることはご承知の通りであります。しかも1985～86年度から、追加奨学金の地区割当基準が、下記の通り大幅に引上げられたことは、われわれに貴重な教訓を与えるものであります。

1982～83年度割当 (1979～80年度基準)		1985～86年度割当 (1982～83年度基準)	
地区1人平均寄付額	追加奨学金	地区1人平均寄付額	追加奨学金
\$10.00～14.99	1口	\$19.00～28.99	1口
\$15.00～19.99	2口	\$29.00～38.99	2口
\$20.00～29.99	3口	\$39.00～48.99	3口
\$30.00～39.99	4口	\$49.00～58.99	4口
\$40.00～49.99	5口	\$59.00～68.99	5口
\$50.00～59.99	6口	\$69.00～78.99	6口
\$60.00～69.99	7口	\$79.00～88.99	7口
\$70.00～74.99	8口	\$89.00～98.99	8口
\$75.00～	9口	\$99.00～	9口

② 寄付金が総額において予想を上回る大幅の伸びを示すようになったのは近々数年のことで、次のような見過し得ない問題点もあります。

◎ 地区単位では前年度より寄付の減った所が昭和56年度に11地区あり、57年度にも3地区あった。

◎ 伸びの主力は特別寄付であるから、年度によつて、今後大きく変動する危険がないという保証はない。

◎ 安定収入と見られる普通寄付ですら、クラブによつては、前年度より減額された例もあり、安易な増額は期待できない。

これらの点を考えると、目前の好調にいい気になつて、「毎年奨学金は必ず集まるので将来に対する不安はない筈」というような無責任な甘い考えは慎まねばなりません。

③ 奨学期間が原則として1か年又はそれ以内であるロータリー-財団の奨学金ですら3年前の収入を基準にしていることからすれば、平均2か年を奨学期間とする米山奨学金が、3年前の収入に基準をおいて考えることを、過度の堅実さと非難されることはない筈であります。

若し寄付金が集まらなかつたからといて、急に枠を縮小すれば、2か年乃至4か年の継続支給者があるために、新規採用の枠は極度に圧縮され、むしろ放漫経営のそしりを受けることになるでしょう。「お金がなくて支給できないのなら止むを得ないが、充分有つて支給しないのは納得できない」かも知れませんが、ロータリーの基盤は経済社会でありますから、寄付が、高度成長から低成長に移行することも予め考えておく必要があることは、企業経営の予測と同じであります。貨幣価値はどうせ目減りするのだから、金はある中に使つてしまえというような、インフレに馴れた頭をこの際切り替えて、可能な時に内部留保を厚くしておく堅実経営をご納得頂きたいと思ひます。

④ 昭和56年度の収支を見ますと、総収入687百万円に対して、年度末の余剰金が336百万円で、収入の50%にも達したことはご指摘の通りであります。

然しながら、この年度の支出予算390百万円は、3年前の総収入396百万円の98%にあたり、支出決算額351百万円は、3年前の総収入の88%に相当しており、ロータリー-財団方式からすれば、むしろ使い過ぎの感があります。

「なぜこんなに出し渋るのか理解に苦しむ」とのお言葉ですが、無意味に出し渋っている訳では決してありません。「世の中は激しく変遷しております。常に変化に対応する用意がなければなりません」とはどこかで拝見したあなた自身のお言葉ですが、貴台にとつて「常に変化に対応する用意」とは具体的にどんなことでしょうか。

目先の現象しか見ないで、「多額の積立金を置くことに反対し、全員に支給して喜んでもらうべし」というのは水力発電にダムは必要ないというに等しく、このような行きあたりばつたりの無計画論に耳を傾けることなく、長期的展望にたつて健全且つ安定した運営をはかることこそ、全国ロータリアンの負託にこたえる所以であると確信し、基本財産を少くとも50億円以上にして、財団本来の内容を整え、奨学金の相当部分は、寄付の動向如何にかかわらず、その果実で賄えるような体制を確立することを当面の

目標とし、暫くは支出を3年前の総収入の80%位に抑えて行きたいと考えております。今後の寄付金収入が幸いにして高水準の伸びを持続すれば、われわれの念願は比較的早く達成され、毎年毎年追いかけるように寄付を要請することから解放されて、落ち着いて、奨学事業本来の活動にエネルギーを注ぐことができるようになるであります。

結論として、米山奨学会の運営に問題があるというようなお言葉ですが、私をしていわしむれば、問題があるのは、運営の実体ではなくて、資料さえ届けておけば何でも理解してもらえると考える判断の甘さと、与えられた資料を色々な角度から分析する周到さを欠く、独断的批判にこそ問題があると思ひます。勿論私自身も含めて、深く反省しますとともに、米山奨学会へのご要望はご遠慮なく米山奨学会へ直接お申し越し下さいますようお願い致しまして、今後一層のご活躍を衷心よりお祈り申し上げます。

敬 具